

事業報告書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

公1 児童養護施設で生活する児童への支援

1 文通事業

児童養護施設で生活する子どもたちを励ます目的で、札幌市及びその近隣市町村に所在する児童養護施設の子どもたちと文通し、実施に当たり必要な研修を行うこの事業は次のとおりである。

- 1) 文通を希望する子どもたちと会員が、1対1で、平均1ヶ月1回文通した。
令和2年度の文通実施延回数は約620回であった。
令和2年度は、新たに2組の子どもと会員が文通を始め、卒業や退所等により12組が文通を終了した。
- 2) 文通した児童養護施設は次のとおり。
札幌南藻園、興正学園、羊ヶ丘養護園、柏葉荘、ふくじゅ園、
天使の園、櫻ヶ丘学園（以下、「児童養護施設」と言う。）
※ 令和3年3月31日現在の文通児童数は43人、文通会員数は40人
- 3) 文通の現状について話し合い学ぶための「文通会員のつどい」は、新型コロナウイルス感染症（以下感染症という）の拡大防止と参加者の安全を最優先に考えて開催を中止した。（当初開催予定日は8月28日（金））

2 施設訪問事業

児童養護施設が主催する行事に参加し、子どもたちと交流し、その育成に寄与するために「施設訪問」を行っているが、令和2年度は感染症流行のため、施設で生活する児童と職員の方々そして法人会員の安心安全を考慮し、すべての施設訪問事業中止を理事会で決議し行わなかった。

3 家庭実習事業

- 1) 令和2年度は、文通会員宅に文通児童が宿泊して行う家庭実習は行わなかった。
- 2) 児童養護施設の小学生が、夏休み期間を利用して行っているお泊り会は感染症流行による影響を考慮して行わなかった。

4 新しい出発を励ます会事業

文通から始まる当法人の支援活動は、奨学金給与や施設訪問活動等を行い、高等学校卒業で終了する。児童養護施設を卒園し就職・進学する子ども（卒業の日まで、この法人の奨学生であった者）を対象に、「新しい出発を励ます会」を開催した。児童のこれまでの苦労と努力を労い、新しい門出を祝福・激励した。なお、令和2年度は感染症拡大防止と参加者の安全を最優先に考え、開催時間を短縮し出席者は最小限にとどめ、会食は行わない形式で開催した。内容等は次のとおり。

- 1) 開催 令和3年2月13日（土）、札幌サンプラザ
- 2) 参加 24人（卒業生6人、施設関係者7人、当法人会員等11人）
令和2年度「新しい出発を励ます会」の参加対象卒業生23人の中から文通してい

た児童が代表者として参加した。施設からは施設長と引率の先生、当法人からは会長と常務理事、卒業生と文通していた会員に限定した。

- 3) 内容 励ましの言葉、文通していた卒業生と文通会員とのエピソード紹介
卒業生の今後の進路や決意の発表、
- 4) 贈呈 新生活を始めるに当たり必要な品物を、当法人・企業・個人から贈呈した。
(ソックス、靴下、マフラー、フェイスウォッシュ、歯磨きセット、爪切り)

5 小学校入学祝寄贈事業

児童養護施設に在籍中で、令和3年4月から小学校1年生に就学する児童に、通学に必要な品物を3月1日に次のとおり寄贈した。

- 1) 寄贈品 通学用の靴、下敷き、ペン、筆入れ、鉛筆、消しゴム、靴下
- 2) 寄贈先 札幌南藻園4人、興正学園5人、羊ヶ丘養護園2人、柏葉荘4人、
櫻ヶ丘学園3人 合計18人、(ふくじゅ園、天使の園は入学者なし)

6 クリスマスプレゼント寄贈事業

令和2年度は、クリスマスの頃、児童養護施設の子どもたちに生活用品を寄贈するこの事業は行わなかった。

7 展覧会事業

児童養護施設の子どもたちが、展覧会に出品する作品制作に努力し、或いは、作文を書きいろいろなことを見つめるなど、展覧会事業参加を通じ子どもたちが成長する機会を与えることを目的としてこの事業を行う。併せて、展覧会で大勢の方に子どもの作品を観て頂き、児童福祉や子どもの教育について、改めて考えて頂く機会になることを期待しこの事業を行う。令和2年度は次のとおり。

1) 募集と応募

令和2年8月、児童養護施設に対し「絵画展及び書道展並びに作文コンクール」の開催を知らせ、出品を勧めたところ次のとおり応募があった。

①絵画展 65人 ②書道展 32人 ③作文コンクール 13人

2) 審査会を開催し優秀作品を選考した。審査員と審査内容は次のとおり。

- ①絵画展 令和2年10月5日(月)開催。 審査員 阿部 宏行 氏
優秀作品16点を選考
- ②書道展 令和2年10月1日(木)開催。 審査員 大上 凌胡 氏
優秀作品12点を選考
- ③作文コンクール 審査員 渡邊 知樹 氏
優秀作品3点を選考

選考理由を、展覧会場に掲示した他、「心の里親しんぶん第231号」に掲載した。なお、令和2年度は絵画及び書の金賞に北海道知事賞が、作文コンクールの金賞に札幌市民憲章推進会議議長賞が加わった。

3) 展覧会開催

次のとおり、絵画・書の展覧会を開催した。

令和2年10月20日(火)～21日(水)

北海道庁1階 道政広報コーナー(入賞作品)

令和2年11月1日(日)～6日(金) 札幌市地下街オーロラタウン(全作品)

4) 表彰式開催

優秀作品の表彰式は、感染症拡大防止と参加者の安全を最優先に考えて中止とし、賞

状等は各施設に持参した。

- ① 当初開催予定日 11月14日(土)
- ② 入賞者に賞状と楯を、選外の子どもには賞状を、そして応募者全員に参加賞(文房具、筆、原稿用紙、絵具等)を出賞した。

8 広報事業

1) 心の里親しんぶん発行

- ①発行期日 231号(1月15日)
新聞は通常年2回発行しているが、令和2年度は編集作業における感染症拡大防止のため、7月15日発行号は延期した。
- ②発行部数 1,300部
- ③主な内容 実施した事業の報告、法人からのお知らせなど
- ④配布先 公共施設、支援者、他

2) ホームページ

内容 法人紹介、活動報告、情報公開、

9 心の里親フェア開催事業

児童養護施設を対象に行っている活動を知らせ、支援を求める目的で行っているこの事業は感染症拡大防止のため開催を中止した。(当初開催予定日 9月21日(月))

10 活動報告会事業

令和2年度は、法人の活動内容について報告するこの事業は行わなかった。

11 奨学金給与事業

児童養護施設で生活し、高等学校等で修学する子どもたちに、奨学金を給与した。修学にかかる経済的負担を軽減し、勉強や部活に励み、将来を担う立派な社会人になることを願い、次のとおり行った。

- 1) 募集 令和2年度奨学生募集案内は、令和2年3月13日開催の施設代表者会でおこなう予定であったが、感染症拡大による北海道独自の緊急事態宣言発出のため、有事の対応として書類郵送により行った。
- 2) 選考 7月14日(火)、奨学生選考委員会を開催、書類審査により応募者107人を理事会に推薦した。
当初6月5日(金)に奨学生選考委員会を開催する予定にしていたが、感染症流行のため高等学校等が休校となり、提出書類である在学証明書・成績証明書の取得が困難な状況になったことから、選考日を繰り下げた。
- 3) 認定と通知 9月7日(月)「令和2年度第5回理事会」で、奨学生応募者107人を令和2年度奨学生として承認し、その旨を通知した。
- 4) 奨学生 学校は、全日制70人、定時制4人、高等養護学校27人、
通信制・単位制6人
学年別は、1学年39人、2学年44人、3学年24人、
(但し、以上の人数には、前年度も奨学生であり、引き続き更新し奨学生になった者を含む。)
- 5) 奨学生認定式・奨学金授与式開催
初めて奨学生になった札幌市内と北広島市の児童養護施設の奨学生を対象に開催し、

会長訓示、奨学生認定書交付、今年度の奨学金の給与を行っているが、令和2年度は感染症拡大防止と参加者の安全を最優先に考え、理事会の決議によって施設代表者名義の金融機関口座へ一括振込を行い、施設長から奨学生本人に渡してもらう有事の際の対応を行った。

6) 辞退

児童養護施設から退所により、次のとおり辞退があった。

9月3人、1月2人、(合計 5人)

7) 給与 奨学金(年間1人2万5千円)を一回で給与。

① 給与日 9月10日 給与延人数105人

収1 前売券販売

この法人への支援をお願いするためのこの事業、令和2年度は主催団体より中止の決定があった。

(参考)

全事業の活動延人数と活動延時間(支部活動報告より)

公益事業 513人 515時間